

2013

12月号

念仏のこころに生きる生活を

高岡教区

教区報

教区第十二次支援班報告（東日本大震災）

食分のそばを提供した。

この小池長沼仮設住

ているそ
うである。

十月三十日、十一月一日にかけて、教区災

宅は主に南相馬市小高区に住んでおられた方が

「もし、支

害救援活動専門委員会の企画による第十二次

避難をされている。小高区は福島第一原発から

援物資と

支援班が福島県南相馬市の仮設住宅と相馬組

二十キロ圏内の沿岸部に位置し、津波被害と放

いうこと

勝縁寺（湯澤義秀住職）を訪れ、手打ちそば

射能汚染の二重の被害を受けた土地である。

であれば、

の炊き出しを行った。

そばを振る舞う中で、それぞれポツリポツリ

ペットボ

これは、昨年十一月に教区内の有志が手打

と自分の境遇を口にされることもあり、「あの津

トルの水

ちそばの炊き出しを行ったことがきっかけと

波で家族は皆流されて、年を取った私一人だけ

をお願い

なり、高岡教区と南相馬の方々との交流の一

が生き残りしました。」等、未だ深い悲しみの中で

したい。」

環として、企画されたもの。今回はそば打ち

避難生活を送っておられることがうかがえた。

地元の社

というので、「富山そば研究会」のメンバー

また、今回のそば打ちに際しては、ダシ用な

会福祉協

を含む十名が参加した。

どに必要な水は富山の水を持って行って使用し

議会の職

初日は、百二十八世帯が避難生活を送る小

たが、余った水を捨てようとしたところ、「捨て

員さんはそのように答えられた。

池長沼仮設住宅を訪問し、翌日の炊き出しの

るなら、その水をください。」と喜んで持って帰

同夜には相馬組勝縁寺でそば打ちを行い、同

準備作業、

られるという一幕があった。

組の常福寺のご門徒も交えて六十人以上の門信

二日目は

南相馬市の生活用水の水源のダムは、強度の

徒が集まり、そばを食べ、お酒を酌み交わしな

朝八時過

汚染地域である飯館村付近に存在し、今のところ

からの交流会となった。

ぎから

る水道水から放射性物質は未検出となっている

小池長沼仮設住宅・勝縁寺の門信徒ともに「こ

「富山そ

ものの、福島県各地のダム底の泥からも放射性

んなに美味しいそば食べたことない！」と大変好

ば研究

物質が検出されており、「水道水は未検出と言っ

評で、「来年はいつ来てくれるんですか？」と早

会」のメ

ているが、放射性物質が流れこむであろう地下

くも来年のリクエストをいただいた。

ンバーを

水脈である井戸水は、いくら行政に言っても調

高岡教区では今回の支援を通して得た情報を

中心にそ

べようとしない。「や、今ここに水を売りにくれ

元に、今後も支援活動を企画している。また、

ば打ちを

ばいい商売になりますよ。」という冗談も出るく

今月二十五日、二十七日には第十三次支援班を

行い、計

らいに水に対する不安は根強く、事実ポリタン

派遣し、福島県福島市の仮設住宅で餅つきを予

二百二十

クで水を売りに来る業者の水が飛ぶように売れ

定している。



親鸞聖人を語る夕べを開催 会館報恩講前日

今年も十一月二十五・二十六日の両日、会館報恩講が営まれ、初日の夕方には教化団体合同によるお初夜「親鸞聖人を語る夕べ」が開催され、約七十名が参加された。

この「語る夕べ」は会館が建てられた二年後の一九九四年から催されているもので、その趣旨として「報恩講の意義を考慮した企画を盛り込み、会館や寺院にこられることの少ない方々（特に青壮年層）への参加呼びかけの機縁とする」ことが目指されている。最初に、宗祖讃仰作法による音楽法要が勤められ、宮川教務所長の導師のもと、正信偈が唱えられると、参拝された方々も一緒にお勤めされる姿が多く見られた。



続いて、小滝信生氏（震災支援を続ける会事務局長・連研中央講師）から「念仏者は社会問題とどう向き合うのか」というテーマで講演が行われた。小滝氏は、津波被害を受けた宮城県亘理町や、今なお原発被害に苦しむ福島県楢葉町の仮設住宅の方々との交流や支援の状況についてお話しされ、未だに厳しい避難生活が続いているなかで、より悲しみと怒

りが深まっていることを訴えられた。また、「被災者の悲しみに寄り添う」という言葉に触れられ「現地で『大きなお世話だ』と言われた。被災者の側に立つた言葉ではなく、自分たちにとって都合のいい言葉として使っていたのではないか」「私たちが豊かさを追い求めた結果、生み出された『原発』。一方で、み教えのなかで『罪悪深重の凡夫』と聞かせて頂きながら、この事故が起こるまで、それが私たちの追い求めた豊かさの結果である、ということに思い至っていなかった。そのことを支援活動のなかで、初めて気付かされました」と話された。今後もこの「親鸞聖人を語る夕べ」では、伝統的な法座の形態にこだわらない新しい法座のあり方を模索して、社会にある様々なテーマを取り上げていきたいとしている。



また、翌二十六日には、各組からの法中出勤のもと午前・午後と報恩講が、講社連盟の講員の方々など百三十名あまりの方が参拝されるなか勤められ、立川証氏（教区布教団副団長・川上組浄教寺）のご法話を聴聞された。

仏婦ダーナ募金のご報告

教区仏婦連盟では、今年のダーナ募金の集金を12月2日（月）におこない、**725,602円**が集まりました。

集まった募金は、協議の上、フィリピン・台風30号災害義捐金及び東日本大震災義援金、更生保護施設の西本願寺白光荘へ寄付される予定です。

ご協力くださったみなさまに厚く御礼申し上げます。

平成25年度

教区賦課金(後期分)納入について

5月当初にお知らせ致しました告知書の通り今年度の教区賦課金（後期分）の納入期限は12月25日（水）迄となっています。できるだけ早期の納入をお願い致します。

御同朋の社会をめざす運動の「トナー」

『教区連研のための研究会』に参加して

十二月五日、西本願寺高岡会館において『連研のための研究会』が開催されました。この研究会は各組の連研スタッフを対象に、連研推進上の諸問題について協議し、各組の連研活動につなげていくことを目的としています。今年度は「連研活動の成果」教区や組に何をもたらしたのか」をテーマに、これまでの連研活動をとおして教区や組の何が変わり、どのような成果がもたらされたのかを検証し、連研が本来何をめざしてきたのかを確かめ合うなかで、これからの組活動における連研の位置づけを考えることがねらいでした。

まず、濱野信宏さん（教区主幹）より、「なぜ連研が生まれ、なぜ連研でなければならなかったのか。連研の目的や役割を確かめることは、組活動そのものの意義を問うことにもつながる。また、差別・ヤスクニをはじめとする社会の諸問題が教えと切り離され、私の問題となり得ていないことが、知識習得を求める傾向を生み出し、話し合い法座を敬遠する要因になっているのではなか」との問題提起があり、それを受けて、私（組）にとつての連研の「成果」と、今後の組活動における連研の役割について話し合いがなされました。

班別報告の後、岡西法英さんより、「『同朋教団への回帰』が本来の連研の目的。そこに至るにはまず教団・寺院の体質改善が必要であり、僧侶・門徒の自己変革運動を進めていくための中核となっていた。門徒の養成が当初の連研の願いであった。課題を共有し、その克服に向けて共に歩む仲間になっていくこと。話


し合い法座が重要なのは、人と人とのふれあいの中でしか仲間を見出すことができなからである」とのまとめの話がありました。

近年、連研の受講者層の変化とその対応が、多くの組において課題となっています。今までお寺に縁をもっていなかった人、戦後世代（もしくは戦後教育を受けた世代）の人、一方で、『門徒推進員中央教修』対象年齢制限の撤廃に伴い、これまでお寺の活動に深く関わってきた人、戦後世代ではない人の連研受講も増加傾向にあります。その意味では、連研の受講者層は変化しているというよりは、多様化しているとも言えるでしょう。

受講者層の変化・多様化に伴い、いわゆる「仏教（真宗）初心者」への対応として、ほとんどの組が、入門講座的（話し合い法座ではなく知識習得のための講義中心）プログラムを採用しています。その是非はともかく、話し合い法座が成り立たないのは受講者のレベルや質の問題ではなく、僧侶・門徒スタッフの連研に対する課題意識の曖昧さと内容の質の低下にその原因があると私は考えています。

今研究会に参加して、今一度、組の現場でこれまでの連研活動はどうであったかを検証すること。また、これから連研をとおして何を共通の課題とし、何を願いとしていくのか、連研は組の活動（運動）の原動力となり得るのかについて、僧侶・門徒の立場を越えて話し合いをすることから始めなければならぬと強く感じました。

これからの日程 (12/21 ~ 1/20)

12月		
21	仏のこどものつどい	
22		
25	長寿苑 教区第13次支援班 (~ 27・福島)	
28	午後から事務休業 (~ 7日まで)	12月28日の午後 より、1月7日まで、 教務所事務休業いた します。
31	除夜会	
1月		
1	元旦会 (修正会)	
2		
3		
4		
8	教務所事務開始	
9		
10	常例線会所懇談会	
11	常例法座	
12		親鸞聖人御正忌報恩講 (~ 16日・本山)
14	事務休日 (~ 16日)	1月14 ~ 16日ま で、親鸞聖人御正忌 報恩講のため教務所 事務休業いたします。
15		
16		
19		
20	教区新年会	

ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (KNB) ・ 73.8 kHz.
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第2・4日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

- 12/14 (土) : 内田 正祥 氏 (三重県・正覚寺)
「参らしてもらおうでね」
- 12/21 (土) : 内田 正祥 氏 (三重県・正覚寺)
「『かわいそうに』ではなく『ありがとう』」
- 12/22 (日) : 城野 至界氏 (高岡教区・善證寺)
- 12/28 (土) : 徳永 一道 氏
(浄土真宗本願寺派勸学寮頭)
「親鸞聖人と無常」
- 1/4 (土) : 大谷 光真氏
(浄土真宗本願寺派門主・本願寺住職)
「年頭の挨拶」
- 1/11 (土) : 徳永 一道 氏
(浄土真宗本願寺派勸学寮頭)
「『平生業成』ということ」
- 1/12 (日) : 仲尾 信博 氏 (富山別院輪番)

【西本願寺高岡会館1月の常例法座】

ご講師： 赤 沼 唯 教 氏
(高岡教区・西光寺)

ご講題：『お念仏とは？』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。
FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。
一袋二枚入りで価格は次の通り
一袋二枚入りで価格は次の通り
・特大箱 (170袋) 8,300円
・大箱 (36袋) 2,300円
・1組 (10袋) 500円
お申込み先は…〒933-0003 高岡市能町1298
耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0766) 23-9822

編集後記

海上自衛隊乗組員の自殺に絡み、「いじめを示す調査文書
が隠されている」と内部告発した方に対し、海上自衛隊が懲
戒処分の手続きを始めたとの報道がされました。組織にとつ
ては、都合の良し悪しに関わらず、情報が漏れたことを問題
視したのではなからうかと思いますが、いじめによって、尊
厳が奪われたことに対しては問題にせず、組織を守るた
めの行動に憤りを感じます。

「学校において『いじめ』という言葉自体が問題」だと指摘
し、「『いじめ』でなく『暴行罪』と呼ぶべき」と言われた映画
監督でもありお笑い芸人の言葉が、海自の上層部に届いてほし
いと切に願います。